



血液内科

血液内科 部長 又野 禎也



Q 「血液」とは何ですか？

A 血液とは、血管の中を流れている液体のことで、液状の部分を血漿けつじょうといいますが、目には見えませんが、この血漿と呼ばれる液体の中に血球という血液細胞があります。血液細胞には①体の隅々まで酸素を運搬する赤血球、②様々な菌から体を守る白血球、③出血を止める血小板と大きく3つの血液細胞があります。

Q 「血液内科」とはどこなところですか？

A 砺波総合病院の血液内科は3人の医師で担当しています。主に、血液細胞の異常が原因で起こってくる病気を診療しています。他にも、血漿の異常から起こる病気の一部も担当しています。他の診療科を受診した場合でも、血液の病気と診断された場合は、診療を血液内科で引き継ぐこともあります。逆に、血液の病気と診断されても、原因が別にある場合には他の診療科に診療を依頼することもあります。

Q 「血液」の病気にはどんなものがありますか？

A 貧血等のよく耳にする病気から、血液がん

や血液難病と呼ばれる病気まで、様々な病気があります。

Q 「血液がん」とはどんなものがありますか？

A 有名なものでは白血球や悪性リンパ腫といった病気があります。他にも、多発性骨髄腫や骨髄増殖性腫瘍というものもあります。

Q 「血液がん」の治療法は？

A それぞれの血液がんにあった治療法があります。ただし、病気の種類や程度によって長期間の入院が必要なものから、すぐに治療する必要がない病気まで様々なものがあります。治療のため入院が必要な場合もありますし、通院で治療できる病気もあります。治る場合もありますが、長期間にわたり定期的に治療を続ける必要がある病気まで様々です。今までの抗がん剤で十分効果が認められなかった方に対しても、新しい抗がん剤がどんどん開発されています。

Q 「血液難病」とはどんな病気ですか？

A 昭和47年に策定された難病対策要綱で、次のように定義されています。

- 1 原因不明、治療方針未確定であり、かつ、後遺症を残すおそれが少なくない疾病
 - 2 経過が慢性にわたり、単に経済的な問題のみならず、介護等に著しく人手を要するために家族の負担が重く、また精神的にも負担の大きい疾病
- 言い換えれば「原因がわからず、特効薬もなく、自然に治らずに慢性的な経過をとり、しかも様々な合併症をおこす危険性がある病気」です。

Q 「血液難病」にはどんなものがありますか？

A 再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血、特発性血小板減少性紫斑病といった病気のほか、様々な病気があります。

Q 「血液難病」の治療法は？

A それぞれの病気にあった治療法があります。ただし、病気の種類や程度によって長期間の入院が必要なものから、すぐに治療する必要がない病気まで様々な病気があります。

Q 「血液内科」を受診するには？

A かかりつけ医から紹介状をいただければ、診察予約をお取りします。紹介状の内容により、受診前に検査を受けていただく場合や受診する際の注意点をあらかじめお知らせします。なお、当院は日本血液学会の血液疾患症例登録システムに参加しています。そのため、個人情報保護に配慮して疾患登録を行っています。ご協力いただけない場合は、その旨をお伝えください。